

鉄道・物流5社による共同実証実験

鉄道を活用した物流実証実験を実施します！

2016年9月・10月、東京メトロ有楽町線～東武東上線にて模擬荷物を使って実施します

 東京地下鉄株式会社
 東武鉄道株式会社
 佐川急便株式会社
 日本郵便株式会社
 ヤマト運輸株式会社

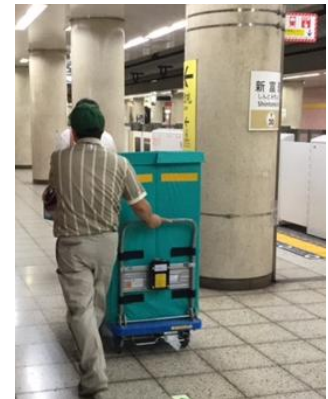
東京地下鉄株式会社、東武鉄道株式会社、佐川急便株式会社、日本郵便株式会社、ヤマト運輸株式会社では、**2016年9月から10月にかけて、東京メトロ有楽町線～東武東上線において、既存の鉄道施設を活用した物流実証実験を共同で実施します。**

本実証実験は、物流に関する交通渋滞、CO2排出量の削減、トラックドライバー不足等の社会的課題の解決策として想定されている、旅客鉄道の輸送力を活用した貨物輸送に関するものです。実験パターンとして、「拠点間輸送」と「拠点～駅間輸送」の2パターンを実施します。なお、両実験とも、お客様がご利用できない実験専用ダイヤを設定し、本年9月から10月にかけて合計10回行います。

本実験終了後は、取得したデータや旅客輸送に与える影響、物流各社のニーズ等を勘案し、トラック輸送から旅客鉄道を活用した貨物輸送への転換（モーダルシフト）の実現可能性を検証します。

鉄道を利用されるお客様の安全面及び安定輸送の確保に最大限の注意を払い、万全を期して実験を行ってまいります。お客様のご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

詳細は別紙のとおりです。



※本日、この資料は国土交通省記者会、都庁記者クラブ、ときわクラブ、郵政記者クラブ、レジャー記者クラブ、埼玉県政記者クラブ、川越新聞記者会にお届けしています。

本件に関するお問合せ先

東京地下鉄株式会社	広報部広報課	阪本・吉田	電話：03-3837-8277
東武鉄道株式会社	広報部	藪・田浦	電話：03-3621-5640
佐川急便株式会社	広報部広報課	湯澤	電話：03-3699-3614
日本郵便株式会社	経営企画部広報室報道担当		電話：03-3504-9798
ヤマト運輸株式会社	広報戦略部	藤岡	電話：03-3248-5805

鉄道を活用した物流実証実験 詳細

- (1) 参画事業者
東京地下鉄株式会社（東京メトロ）、東武鉄道株式会社、佐川急便株式会社、日本郵便株式会社、ヤマト運輸株式会社
- (2) 活用する鉄道施設（路線・駅）
東京メトロ：新木場車両基地、和光車両基地
有楽町線 新富町駅・銀座一丁目駅・有楽町駅
東武鉄道：森林公園検修区
- (3) 実験内容
- ① **拠点間輸送**（5社で実施。日本郵便は新木場車両基地－和光車両基地のみ。）
物流各社の拠点からトラックで模擬荷物を新木場車両基地に搬入
↓
東京メトロ 10000系車両の1両に荷物を積載
↓
有楽町線・東上線にて実験専用ダイヤで列車運行
↓
和光車両基地又は森林公園検修区に到着した列車から荷物を下ろし、トラックで物流拠点に搬出
- ② **拠点～駅間輸送**（東京メトロ・ヤマト運輸・佐川急便で実施）
物流各社の拠点からトラックで模擬荷物を新木場車両基地に搬入
↓
東京メトロ 10000系車両の1両に荷物を積載
↓
有楽町線にて実験専用ダイヤで列車運行
↓
新富町駅、銀座一丁目駅、有楽町駅の各駅で、到着した列車から荷物（台車1台程度）を下ろし、駅構内を經由して地上まで搬送
- (4) 模擬荷物
物流各社がお客様からお預かりした荷物ではなく、実際の荷物の重量を模した段ボール等を台車等に積載します。
- (5) 実験日程
以下の各日に1本ずつ運行します（合計10回）。
9月：9日（金）、10日（土）、16日（金）、17日（土）、30日（金）
10月：1日（土）、7日（金）、8日（土）、14日（金）、15日（土）
- (6) 実験における検証内容
各作業工程における所要時間・人員数、安全性確保のための人員配置、作業効率性や安全性に資する機器、施設・設備等の必要性和規模、旅客輸送への影響等を把握します。

【参考】旅客鉄道の輸送力を活用した貨物輸送につきましては、平成27年12月25日社会資本整備審議会・交通政策審議会「今後の物流政策の基本的な方向性等について（答申）」に触れられています。

参考 URL：<http://www.mlit.go.jp/common/001114704.pdf>